

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぽこぼこ 第一放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和7年10月15日 ~ 令和7年10月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和7年10月15日 ~ 令和7年10月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月7日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画を作成するにあたり、スタッフ間でモニタリングを行い、情報共有を図りながら作成している。	その日の振り返りは翌日に行ったり、短時間でもミーティングを行い、児童の情報共有を図っている。	スタッフがそれぞれ自己研鑽を重ね、専門的な支援方法や構造化を含めた環境調整の充実を図りたい。小単位での研修に取り組みたい。また迅速な情報共有になるよう、スタッフ間でのコミュニケーション（意見交換）が充実したものになるよう検討していく。
2	保護者や本人の意向に寄り添った支援（共感的）を図っている。	連絡ノートや送迎時のやりとりを利用して、保護者と利用児本人の意向や様子の共有を行っている。保護者から発信があった言葉の意味や背景をくみとり、共感に努めている。	保護者と利用児本人との信頼関係を構築し、共感的支援とともに、相談があった際には助言やアドバイスの提案を行っていきたい。保護者の意向に合わせた面談時間を設け、家族支援の充実を図っていく。
3	利用児童の様子や状況、体調面に配慮しながら日々の活動を柔軟に組み立てている。	児童の自己選択・意思決定ができるように環境配慮しながら、自立に向けた活動提供ができるよう、スタッフ間で検討している。	個別活動時間の提供が充実してないないことがあるため、環境づくりや職員の配置などの調整をしていくとよいと考える。

	事業所の弱み（※）だと思われるること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流や地域交流、きょうだい支援のイベントなどの機会を設けていない。	保護者交流やきょうだい支援については、スタッフの勤務の都合や保護者の参加方法の検討を十分に要す。地域交流においても、療育事業がどのような場所や環境で展開されているか、公表する手段や機会が不十分である。	地域交流においては、法人間や事業所間での利用児童の交流機会を積極的に設けていきたいと考える。保護者交流については、保護者の要望があれば実施していくとよいかと考える。
2	子どもの安全を確保するための計画、各種マニュアル（事故防止、緊急対応時、防犯、感染予防）の周知と説明が不足している。	マニュアルを提示しているが、提示場所や方法について再検討する必要がある。保護者に安全を確保するための計画を計画通り実施した際に、実施後の報告も不十分である。	保護者に伝わりやすい方法やツールを検討していく。現在利用している情報ツール（ラインワークス等）を見直し、活用方法の理解を深める。また、既存のホームページや広報誌の活用も検討していく。
3	ハード面におけるバリアフリー化、ユニバーサルデザインが進んでいない。	活動空間の清潔と安全面の検討を図りながら支援環境を提供しているが、トイレや洗面台、棚などの設置場所の高さや大きさの調整までは出来難い。利用児童が使いやすい配慮には限界がある。	改修案を検討し、ハード面における安全性をや利便性を高め、支援に繋げていきたい。支援にあたるスタッフの動線も考慮していく。また、使いやすいトイレになるよう環境面の工夫を行う。